

2022年3月30日

## 2021年ACL研究報告

プロジェクト代表者氏名・所属： 福田大輔 総合文化政策学部教授

研究プロジェクト名称：フランス精神分析におけるジョイス研究の歴史についての調査：  
とくに精神分析家マリー・ボナパルトと作家イタロ・スヴェーヴォの繋がりについて

2021年のACL研究プロジェクトで予定されていた、フランス国会図書館でのマリー・ボナパルト個人アーカイヴ閲覧とその複写は、残念ながらコロナ禍が終息せず、さらにはウクライナ戦争によって不可能になった。そのため本プロジェクトの主たる研究テーマの進展はゼロとなった。

### 成果物：

ただし、ジョイス研究については現在進行形で進めており、とりわけ2021年12月5日に日本ラカン協会第20回大会シンポジウムに登壇して、その原稿が同協会の機関紙に掲載される予定である。そのときの発表原稿を第一の研究成果物として提出したい（別紙参照）。この発表を機会に、若手ジョイス研究者との交流がはじまり、多くのオンライン研究会に参加することができるようになった（2022年はジョイスの『ユリシーズ』出版100周年ということで6月16日の記念日に向けて多くの催し物が予定されている）。



第二の成果物として、昨年秋に出版された自著『筋肉のメランコリー』（晃洋書房）を上げさせていただきたい。これは2010年から継続してきたACLプロジェクトと在外研究の成果であり、とりわけ2021年のACL研究プロジェクトではないが、今後の研究の基盤ともなるものであると思われ、ここに報告させていただきたい。

### 予算の消化の内容と今後の研究予定：

渡仏が不可能になることは想定内だったとはいえ、2022年に入ってからギリギリまで渡仏の可能性を探ったため、予算の消化が遅れてしまった。予算の消化の実際としては、書籍代に8割ほど費やし、残りの2割ほどについては、ラカンのジョイス読解についての詳細な研究が記されている『生政治の裏面』（Éric Laurent, *L'envers de la biopolitique*, Paris, Navarin, 2016）の翻訳校閲作業のため、学生アルバイトの費用として消化した。『生政治の裏面』は、せりか書房の編集者の病気などにより校閲作業が長らく停滞していたが、本年夏頃の出版を予定している。これは今年度の成果物として提出する予定である。

福田大輔